

平成 23 年度生活衛生関係営業対策事業費補助金

<連合会・組合・全国センター>事後評価に係る講評

生活衛生関係営業対策事業費補助金審査・評価会

- 平成 24 年 5 月 29 日の第 8 回「生活衛生関係営業対策事業費補助金審査・評価会（以下、「審査・評価会」という。）」で、平成 23 年度の東日本大震災関係以外の 51 件の事業に係る評価を行った。
- 本補助金制度は、補助金の仕組みと効果測定の方法が平成 22 年度までと大きく異なった。一つは、これまで各関係営業が業種・地域の特性に応じて創意工夫のもとに企画提案が行われていたが、この方式に加え、生活衛生関係営業（以下、「生衛業」という。）の直面する課題や社会的要請の強い分野の課題解決に重要と考えられる事業を「先進的モデル事業」として計画申請前に示し、これに基づき企画提案できる仕組みを導入したことである。もう一つは、それぞれの事業に対する効果測定の徹底という観点から、事業特性に応じつつ、数値等による定量的な成果や定性的な成果を明らかにした評価を行うことで、国民に対する説明責任を果たすとともに、次年度以降の適切かつ効果的な事業実施につなげる仕組みにした点である。
- 各事業は、生活衛生同業組合（以下、「組合」という。）又は生活衛生同業組合連合会が、計画及び執行段階において(財)全国生活衛生営業指導センター（以下、「全国センター」という。）の指導・支援を受けながら実施された。
- 計画当初から評価を受けることを前提にアンケート調査を実施するなど、政策目的の達成状況が検証可能な事業として計画、実施されており、行政刷新会議による事業仕分けの教訓を活かした形であったと認められた。
- 以上を踏まえつつ、国費を投じて事業実施を行うに当たっての改善点等が下記のように認められた。今回の評価が、事業仕分けを受けて、補助金執行の新しい仕組みに転換して初めての機会であり、今後の先例ともなることから、可能な範囲で評価に用いる資料の改善を加え、また、事業報告の明確化を求めるなどして、持続性、安定性の高い仕組みにしていくことが求められる。
- アンケート調査やヒアリング調査が、事業の効果測定を行う際の重要な資料であり、多くの事業で取り入れられたが、調査の目的、狙い、調査結果の今後への活用方策などの観点で調査の精度にばらつきがあり、改善の余地がある事業が多かった。

- アンケート調査の重要性に鑑みれば、全国センターなどにおいて、アンケート調査の設計、実施手法等について、成果把握が可能でかつ組合が適切に行いやすい調査モデルを開発して指導するといったことも考えられる。また、アンケートの内容をより良い内容とする観点から、事業計画段階にアンケート票（案）の提出を受け、審査・評価会として適切かつ効果的な助言を行うことが必要ではないかとの意見も出た。
- 今回はイベント型やポスター・パンフレット作成型の事業も多く見られたが、これらを一過性のものに終わらせず、当該事業を通じて何を継続していくべきか、事業終了後に事業の目的をどう発展的に実現していくべきか、といった視点が事業実施者に求められる。
- 後継者確保や省エネ対策などの事業では、短期間のうちに事業成果を現すことに苦慮する事例が見受けられた。このため、結果に至る途中のプロセスを評価するといった観点も考慮する必要があるのではないかとの意見が多く出た。
- 多くの生衛業者は、日頃、家業が忙しい中、組合活動に参加している。このため、事業の申請や成果報告書の作成など審査・評価に伴う作業が加重となり、営業活動に支障が生じないように、効果的・効率的な審査・評価の仕組みにしていく工夫や配慮が必要である。
- ただし、事業の成果を挙げ、成果が国民・社会に還元されるための努力や事業の成果や意義についてわかりやすく整理して説明していく姿勢が常に求められることは言うまでもない。
- 全国センターは、生衛業に係るシンクタンク機能としての役割が求められ、平成 23 年度の事業について、事業効果が最大化されるよう適切な指導・支援を行ったことは評価できる。補助金の PDCA サイクル（Plan（計画）、Do（執行）、Check（評価・検証）、Action（反映））に従って、事業の現場に赴くなどし、実際に事業が適正かつ効果的に執行されているかという観点から指導・支援することは、計画段階での指導・支援と並んで重要であり、引き続き、適切な役割を果たすことが必要である。
- 各事業に対する事後評価コメントは事後評価結果一覧のとおりである。本来は、審査・評価会として統一した見解を出すものであるが、相互に異なる見解に見えるコメントも含まれている。それは、事業について効果を認めつつ、更なる効率性の向上を求める趣旨などによるものであるものと受け止めていただければ幸いである。